

い殊に我々は女子である事を忘れてはならぬ要するに此の日の話振りは前半よりも後半のがよいかし最後の西洋では彼の毒瓦斯を軍事上にまで應用せられる程だのに我日本ではまだかゝる小な虫のため云々は全く蛇足である。

◎講演中黑板上に圖をかきながら話される事について一言しやうと思ふあの方法は教壇に立つて生徒を教ふる時には有効で是非さうでなければならぬが此日のやうな性質の演説中ではどうもわづらはしさを感せさせられるあの場合は紙か小黑板かに準備して置くべきであると思ふしかしこれは絶対にかうしなければならぬとは云はぬ時と場合があるし又圖をかくにしても其方法よろしきをうれば決してさきのやうな感じは起さぬものである。

◎又本校の生徒あたり獨逸語もちつとは覺えて置く必要はないかカイゼルは此頃の一種の流行語であるカイゼルとは何か位の智識はなくてはならぬ。

◎今一つはやたらに拍手をする事であるいつの頃から始つたかは知らぬが拍手の数が多すぎる會の重みをそいでしまふ。

◎最後に岩川先生の御話を伺つてほんとうに蘇生つたやうな氣がした何と云ふ貴い御話であらう實に千金の

重さを感じたのであつた何時とはなしに心身が緊張してしまつた恰も旱天に慈雨一度至つたやうな感じがした此の頃の理科會に一段の光輝を御添へ下すつた事を感謝せずには居られなかつた。

雜 報

役員變動 大正三年四月以來乙部教授は二年間引續き理科部長として留任せられしが本年四月より平田教授繼いで部長となられたり。

會計掛は從來平島助教授を煩はしたるも本年四月より江澤駒路氏交代せられたり。

保井コノ氏歸朝 大正三年三月米國留學の途につかれたる保井コノ氏はシカゴ及びハーバードの大學にて研究に従事し居られしが去る六月二日無事歸朝せられたり。

自大正五年二月二十五日 會費領收報告 至同年六月十日

金六拾錢宛 (大正五年分)

横川 なを	青山 秀	奈良 そう	榆木 なつ
辻村 みちよ	横見 靜	山寺 せい	田中 たま
永井 やゑ	横田 竹	栗山 つな	林 薫
鳥取 ちかよ	山本 リと	大和 辰野	板東 てるゑ

磯部房枝	佐藤さよ	勝失良	八條もり
中野ゆき	佐野らく	服部きみよ	松岡チカ
滋賀千代	星キイ	原田キミ	安井環
松宮シチ	福島ヒサチ	松本春野	井坂やそ
佐々木とく	木原ユキ	中馬キチ	

金六拾錢 (大正四年分)

神林甫

金壹圓貳拾錢 (大正四、五年分)

矢田梅	高木由	平原よね	宮本ふゆ
中田龜喜	小出サキ		

金壹圓貳拾錢 (大正五、六年分)

清水みづゑ

金壹圓貳拾錢 (大正六、七年分)

西脇みな

金壹圓八拾錢 (大正三年ヨリ大正五年マデ)

藤原つた

金壹圓八拾錢 (大正五年ヨリ大正七年マデ)

常石勝 歐陽雅琴

金貳圓 (大正四年ヨリ大正七年マデ但七年分四拾錢不足)

藤林榮

金參圓貳拾錢 (明治四十五年ヨリ大正五年マデ)

松岡芳女

金四圓 (明治四十一年ヨリ明治四十五年マデ)

山田ゆく

金四圓八拾錢 (明治四十三年ヨリ大正五年マデ)

辻本ルイ

金貳拾錢 (大正五年不足分)

田中すぎ

賛助員及會員諸氏にて參觀或は旅行せられたる折の
記事其他適當と思はるゝものゝ御寄稿を希望いたし候。
本會報に質問應答欄を設けて一般の便宜をはかりて
は如何かと存じ候間續々御申越を歓迎致し候。
但次號掲載の分は九月末日〆切と致し候。